

来年のNHK大河ドラマ

「軍師 官兵衛」



講座「姫路が生んだ戦国武将 黒田官兵衛」
(姫路市など主催)のちらし

5月、姫路に行ってきました。来年のNHK大河ドラマは「軍師 官兵衛」。姫路市は官兵衛を大河ドラマに実現しようと、官民あげて働きかけてきたのですから、その喜びもひとしおです。昨年の「平清盛」は平安末期を時代背景とし、今年の「八重の桜」は幕末維新期、来年の「軍師 官兵衛」は戦国期が舞台です。中でも英雄豪傑がひしめいていた、群雄割拠の戦国期から天下統一へと至る過程は、ドラマとしては見せ場も多いと言えましょう。信長、秀吉、家康という天下人以外にも、伊達政宗（「独眼竜政宗」）、武田信玄、上杉謙信（「天と地と」）、前田利家（「利家とまつ」）、山内一豊（「功名が辻」）など、過去の大河ドラマの主人公をいくつも思い浮かべます。天下人を狙う器量があっても、都から遠かったり、周囲に有力な武将がいて、うかつに本国

留守にできないなど、戦国武将にも運不運、浮き沈みがありました。さて、「軍師 官兵衛」はどうでしょうか。「官兵衛」と聞いてすぐにピンとくるのは相当な歴史好きと言えそうなほど、無名に近いように思います。私が姫路に行ったのは、姫路で4月から始まる月一回（計10回）の市民向け講座（シリーズ「姫路が生んだ戦国武将 黒田官兵衛」）の第2回の講師として招かれたからでした。官兵衛は通称で、本名を孝高、号を如水と言います。通常は黒田如水として知られている人物です。戦国時代を代表する武将で、官兵衛とその子長政が築いた福岡藩黒田家は、明治期まで大大名として生き残ります。加藤清正の熊本藩加藤家などは二代で滅びたのですから、戦国武将に発した大名家が生き残るのも大変だったのです。姫路での私の話の題は「福岡藩の藩祖・黒田官兵衛と初代藩主・黒田長政」でした。関ヶ原合戦の時には官兵衛は隠居していたので、初代福岡藩主として数えられるのは黒田長政です。官兵衛の名はどこにも出てこないことになり不都合です

から、初代藩主の前に特に「藩祖」を置いたわけでは、官兵衛（如水）と長政を神様として祭っているのが西公園にある光雲神社です。神社名の「光」と「雲」は、官兵衛の戒名龍光院、長政の戒名興雲院から各一字を取ったことによります。

官兵衛は秀吉の軍師として知られています。信長社長の会社で、末端の取締役に過ぎなかった秀吉が、本能寺の変で信長を倒した明智光秀を討ち（つまり信長の仇討ちをして）、先輩たちをごぼう抜きにして、出世のチャンスをつかみ、信長の後継者に躍り出ます。

その時、秀吉の横にいて知略をめぐらした「中国大返し」という、奇跡とも言える出来事を可能にしたのが官兵衛でした。そもそも信長は、中国地方で毛利氏と向かい合っている秀吉を助けるために大軍を動かし、一夜を京都の本能寺で過ごしていたのです。その援軍の一部隊だった明智軍が「敵は（中国地方の毛利氏ではなく）本能寺にあり」と、信長を攻めたのですが、信長はまさか部下に裏切られるとは思っていませんので、本能寺を守る兵士はほとんどいなかったことでしょう。その必要もなかったのですから、秀吉は信長が生きているかのように振る舞って、毛利氏と和睦し、今度はウターンして京都へと急ぎました。これが「中国大返し」です。敵に背中を見せるのですから、毛利氏が追撃すれば、秀吉軍は命からがら逃げ散るしかなかったことでしょう。用意周到に準備した軍師・官兵

衛の存在、敵方の毛利氏をも人間的な魅力で味方に引き寄せた秀吉という人物。この二つが相まって「中国大返し」の見た事な成功を生んだのでした。

秀吉の軍師としては、もうひとり竹中半兵衛が知られています。官兵衛と半兵衛をさして「両兵衛」（ふたりの兵衛）という言い方もあったそうです。半兵衛は早く亡くなり、その子は黒田家に仕えることになりました。

黒田家は近江国黒田（滋賀県）の出身で、備前国福岡（岡山県）に、さらに播磨国姫路（兵庫県）へと移り、官兵衛は姫路城で生まれました。白鷺城の別名を持ち、世界遺産にも指定されている姫路城。その原型は黒田家によって作られたのでした。そこに秀吉が入り、さらに姫路城主は頻りに代わりながら、現在へと伝えられました。

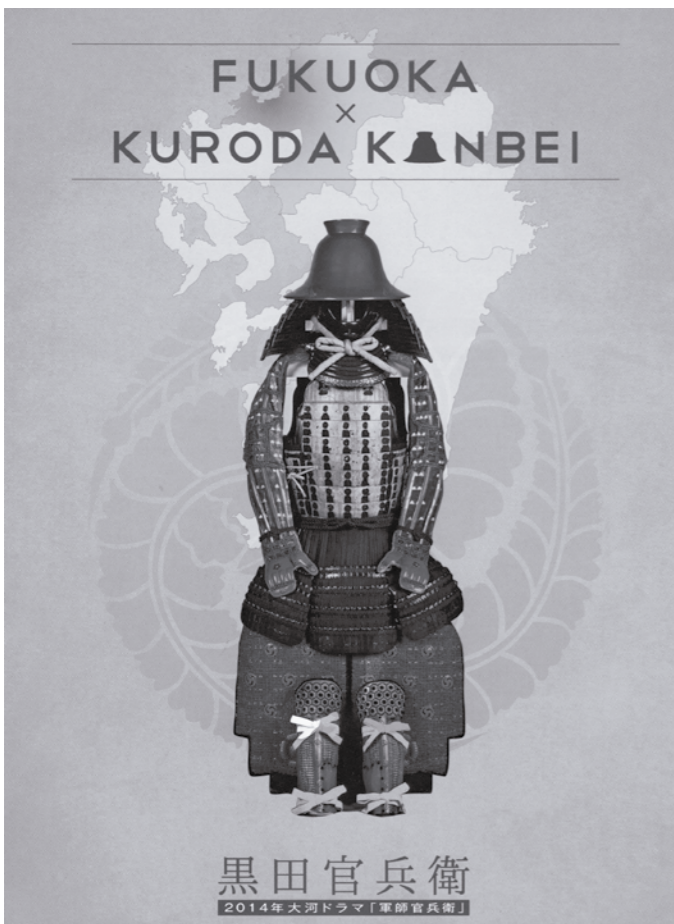
新幹線姫路駅のホームから大通りの先に、ちょうど真向かいに姫路城天守閣が見えるはずですが、今は大きな覆いがかけられています。姫路城大天守の50年に一度の補修、耐震工事が行われているため、天守閣を遠くから見ることができない代わりに、「天空の白鷺」というプロジェクトが行われています。天守閣の横に8階まで上がるエレベーターがあり、7階と8階のガラス窓を通して、天守閣の頂点を目前に見ることができるようです。言い換えると、自分が空中に浮かんだような形で天守閣のシャチホコを見下ろすことができる得がたい機会です。これ

だけ間近に見ると、シャチホコはおろか、瓦の一枚一枚に至るまで、どういう技術で持ち上げたものか、感嘆するばかりです。

姫路時代に信長、秀吉との縁が生じた黒田家は、九州征伐（秀吉による九州統一……九州の戦国時代の終わり）の功で豊前国中津（大分県）に移り、長政の代に関ヶ原の合戦の功によって筑前国に入りました。初め名島城を居城とし、やがて福岡城を築いて名島城は解体されました。この黒田家の歩んだ道に位置する地域は、連携して黒田家サミットを主催してきました。

福岡藩黒田家の歴史は長政から始まるので、すでに隠居していた官兵衛（如水、キリシタン大名「シメオン・ジョスイ」でもありました）と福岡との関係は希薄です。大河ドラマは姫路と中津を主な舞台に進行するでしょうが、連戦連勝の名将官兵衛がどうドラマで描かれるか、乞うご期待というところです。希薄ではあっても、福岡が大河ドラマに登場すること自体が初めてのことではないでしょうか。

*官兵衛の読みは正確には「かんひょうえ」のようですが、一般に「かんべえ」と読み慣わされています。



「福岡と黒田官兵衛」の関わりを説明したパンフレット
(ビジターズ・インダストリー協議会発行)